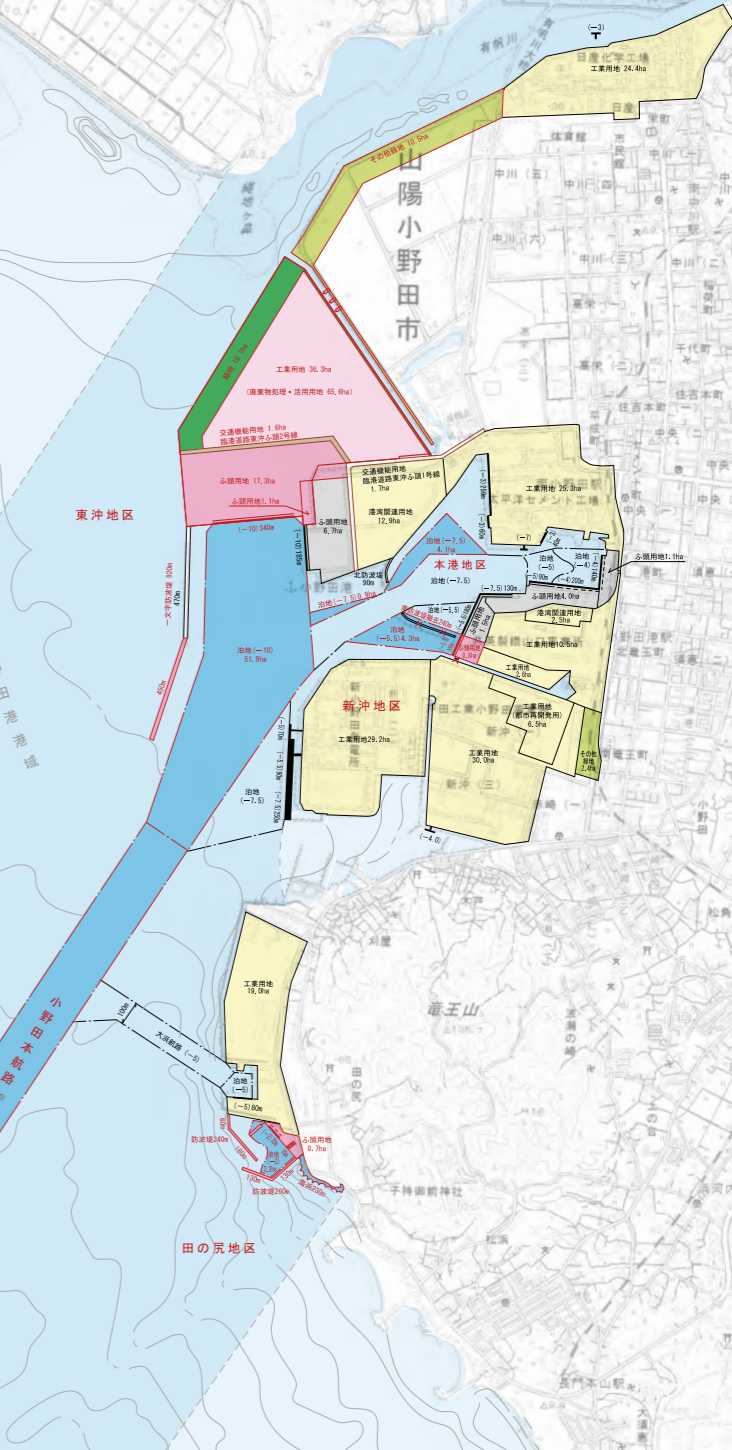
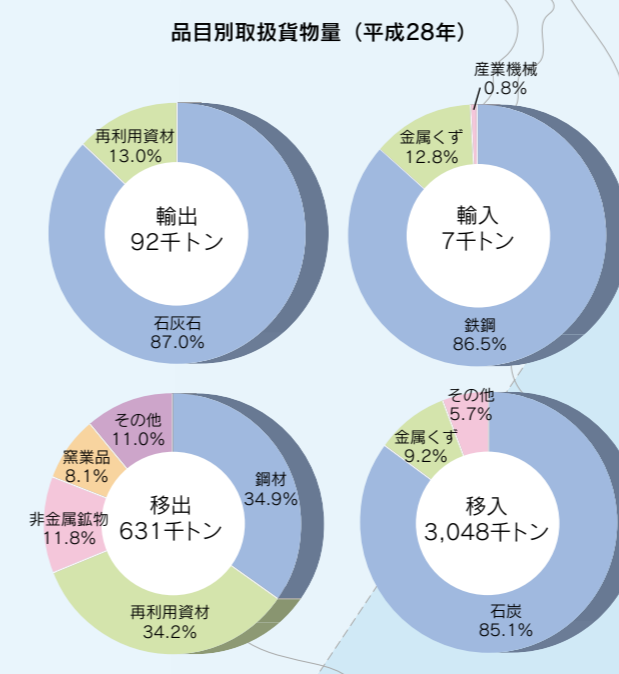
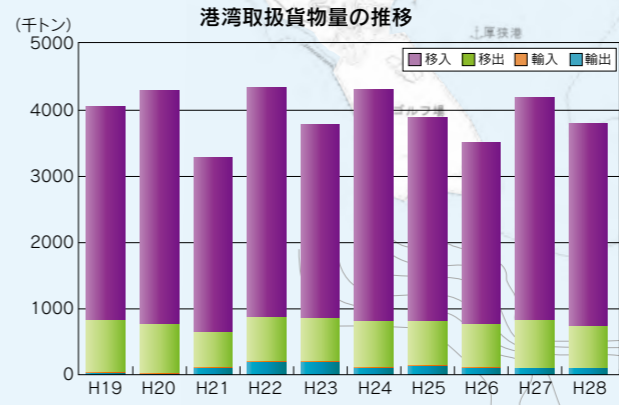


小野田港 港湾計画平面図



重要港湾 小野田港

小野田港は、山口県南西部に位置する宇部港に隣接した港湾で、古くから石炭、セメント、石灰石等の取扱いを主とする工業港として発展し、昭和35年に重要港湾の指定を受けました。

その後、背後地が昭和36年に産炭地域振興臨時措置法、昭和47年に工業再配置促進法の適用を受け、電力、化学、鉄鋼等の企業が立地し、港勢も拡大しました。

港湾施設としては、東沖地区の-10m岸壁、本港地区の-7.5m岸壁、-5.5m岸壁及び-5.0m岸壁があり、金属くず、鉄鋼、砂・砂利等が取り扱われています。

今後は、地域産業の活性化に向けて、既存施設の利用促進を図り、効率的な港湾運営を行います。

沿革

- 明治 14年 (1881) わが国初の民間セメント工場 (小野田セメント) が創設。
- 明治 16年 (1883) 美祿地方産出の石灰石を燃料とするセメント出荷開始。
- 大正 2年 (1913) 小野田セメント (株) による港湾改修工事開始。
- 昭和 5年 (1930) 乙種港湾に編入。
- 25年 (1950) 港湾法に基づく地方港に指定。
- 28年 (1953) 山口県が港湾管理者となる。
- 35年 (1960) 港湾法に基づく重要港湾に指定。
- 36年 (1961) 産炭地域振興臨時措置法の運用を受ける。
- 47年 (1972) 工業再配置促進法の適用を受ける。
- 平成 10年 (1998) 港湾計画改訂
- 11年 (1999) 東沖地区に-10m岸壁完成。

地区名	施設名	延長等	備考
本港地区	岸壁 (-10.0m)	185m (1バース)	
	岸壁 (-7.5m)	130m (1バース)	
	岸壁 (-5.5m)	180m (2バース)	
	岸壁 (-5.0m)	90m (1バース)	
	岸壁 (-4.0m)	340m	

PRポイント

- ・石炭移入量 全国第1位 (2016年実績)
- ・東沖工業団地に隣接する岸壁 (-10m)



東沖-10m岸壁荷役状況

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図 25000 を複製したものである。(承認番号 平 29 情復 第 1431 号)
この地図を第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。